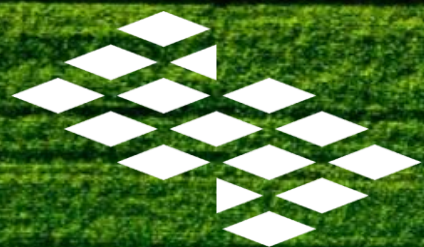




Sagri

Company Presentation Aug 2024

会社紹介／既存サービス紹介



Sagri

Satellite × AI

サグリは、衛星データとAI技術で
食糧危機や気候変動の課題解決を行う
岐阜大学発のインパクトスタートアップです。

衛星データ解析ベンチャーとして、日本で初めて経済産業省より「J-startup」
企業に選出されました。グローバルで行政や大企業との連携をしています。



サグリの目指すビジョン

Human × Earth

人類と地球の共存を実現する

生まれた環境などに捉われず、子供たちが描く夢や自分のやりたいことに何度でも挑戦できる社会を当たり前にできるような環境を整える。

我々の世代が生み出した負の遺産によって起きうる社会環境の変化の中で世界の食糧に対する不均衡な状況や、地球環境の変化により生活圏が圧迫される状況をなくしていく。



Award



Certified as MAFF technology university-based venture

the Ministry of the Environment's Start-Up Grand Prize

Selected as one of the Top 100 startup companies of collaboration with the government

Winner

Association

Runner up



Impact Startup Association



Govtech Association

Runner up

Investors

主要投資家



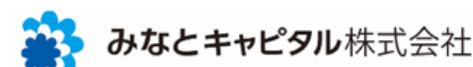
千葉道場

global brain

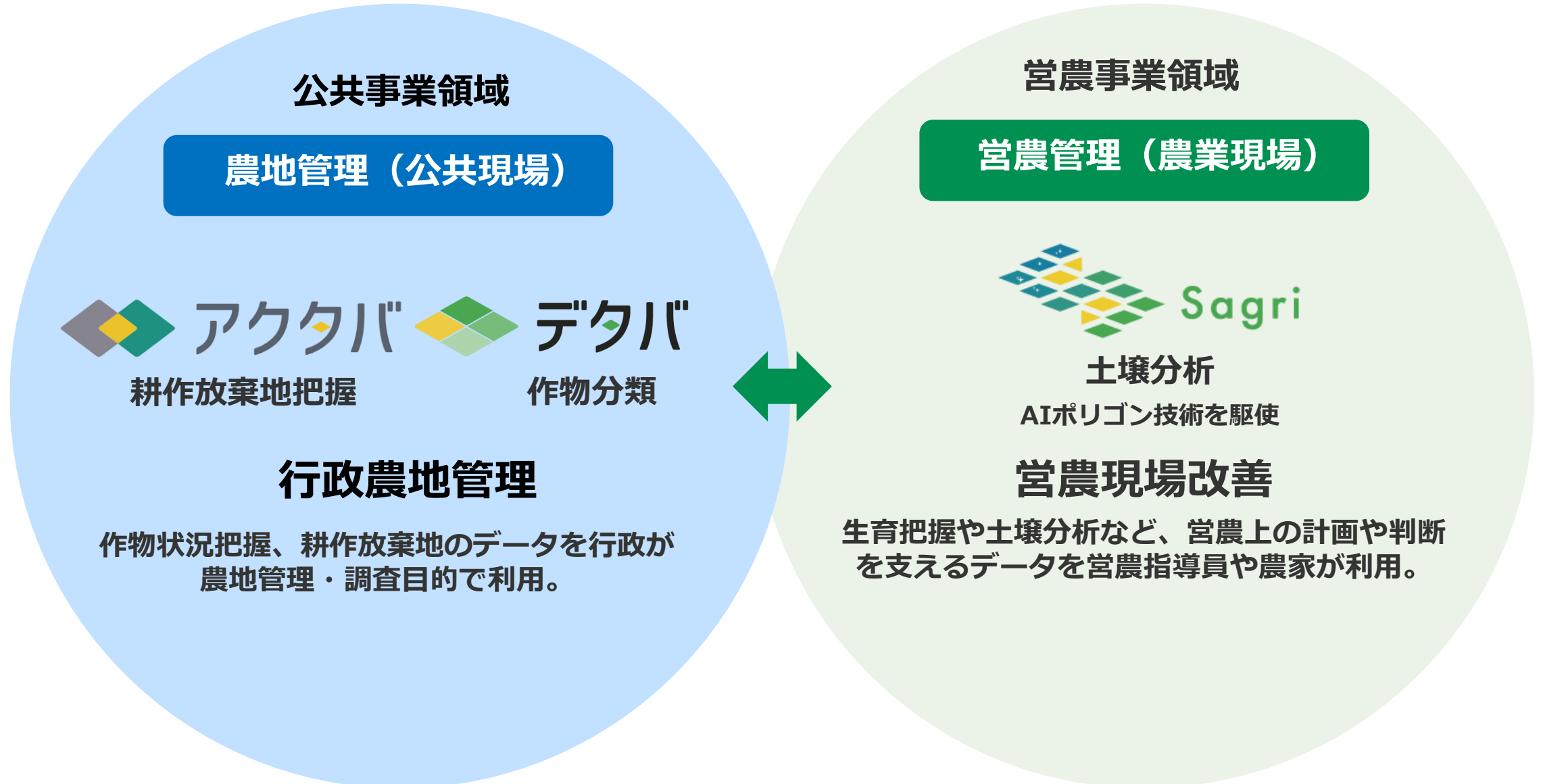
Canon

キヤノンマーケティングジャパン株式会社

SHIMADZU



向き合っている事業領域



コア技術・事業領域

衛星データとAIによる農地区画化技術をベースに様々な分析サービスを提供

区画化（AIポリゴン）

高解像度の衛星画像を、AIを用いた画像処理を通じ、「AIポリゴン」として農地を安価に区画化

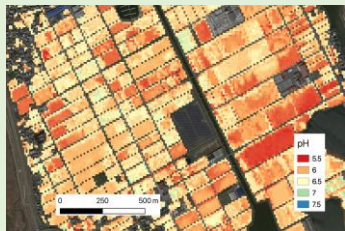


“圃場の区画を自動で判定”



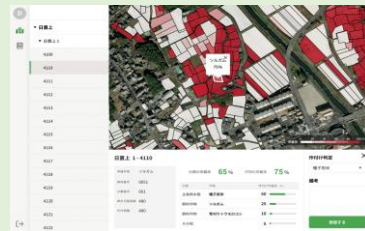
AIによる衛星データの画像および波長の分析により、各種分析を実施

土壌分析



土壌の状態（全炭素、全窒素、pH、CEC等）を分析

耕作・作物分類



耕作の有無や、栽培されている作物を特定

湛水検知



田んぼ等に水が貯められているかを判別

“農地の見える化で、価値を創造”

1



行政の農地調査

アクタバ デタバ

2



農業現場での営農支援

Sagri

3



民間企業向け事業
（農業の脱炭素化）

日本の農業の課題

① 高齢化／農家数

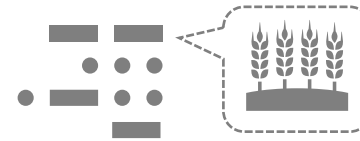
日本の農家の平均年齢

約 **68** 歳

日本の農家数

今後10年でさらに **半分** に

② 効率性



農地が分散しており、
効率的な農業が難しい



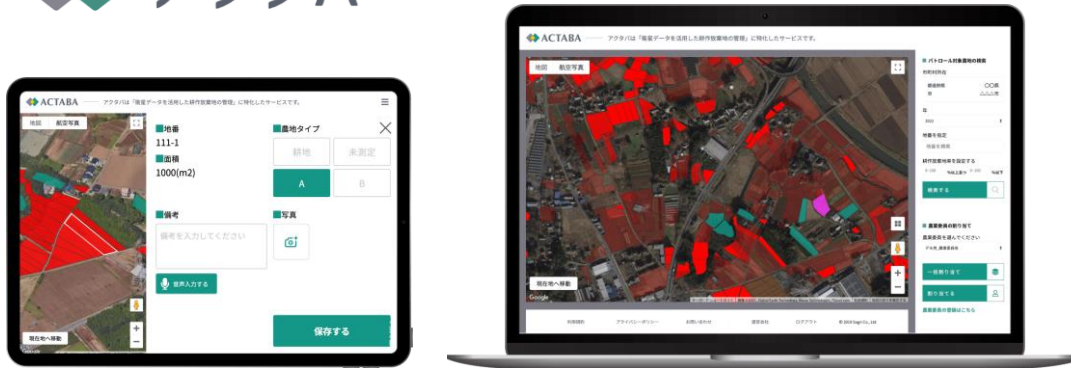
農地を紙で管理
(紙台帳、紙地図)



毎年、農地状況を
目視管理

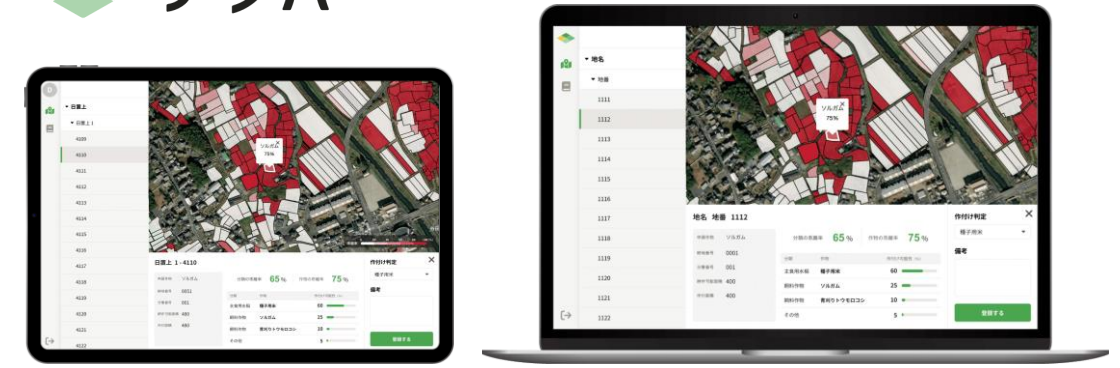
Sagriの既存プロダクト① アクタバ・デタバ

アクタバ



衛星データで
利用されていない農地を
早期発見

デタバ



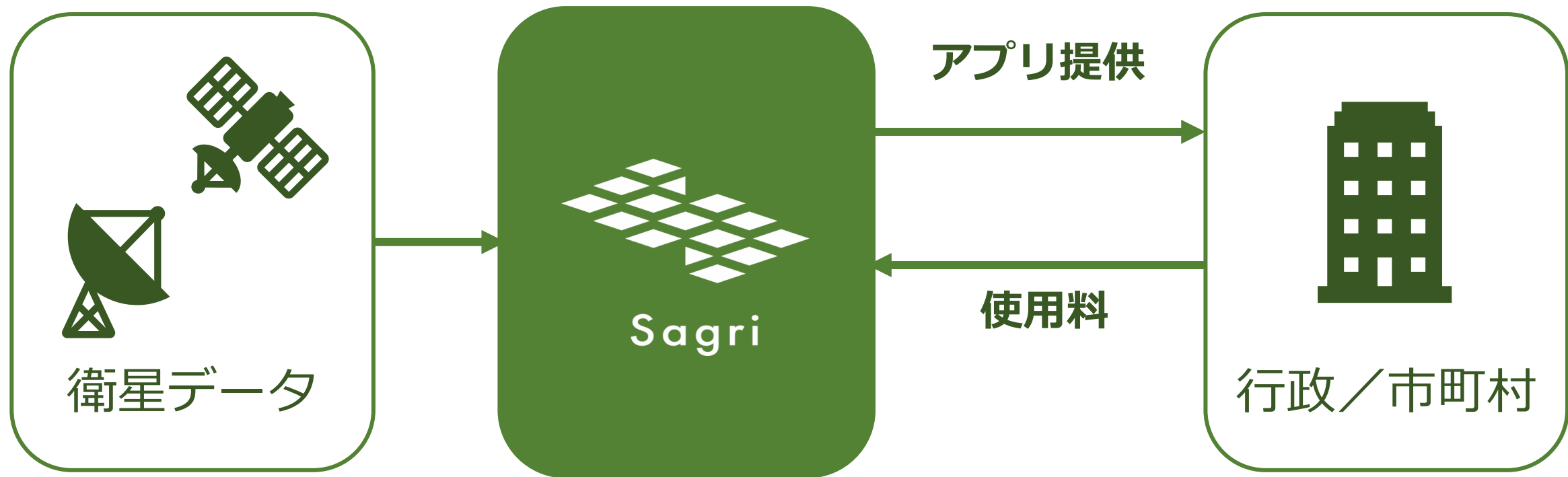
衛星データで
育っている作物が分かる

Sagriの新規プロダクト：ニナタバ

ニナタバは、全国の農地所有者と作り手・担い手をつなげ、農地の利用を促進するサービスです



事業モデル



農地面積に応じた年間利用料を受け取る
行政向けSaaSビジネス

Sagriの既存プロダクト② サグリ



サグリの特徴

- ① 生育状況を地図上で一気に把握可能
- ② 土壌解析データを適正施肥に活用可能
- ③ 圃場を登録するだけですぐに閲覧可能



日付ごとに生育状況を確認できる

衛星データなら過去の生育状況がわかります。各圃場の生育状況を、過去の日付に遡って確認できます。



土壌解析結果を確認できる

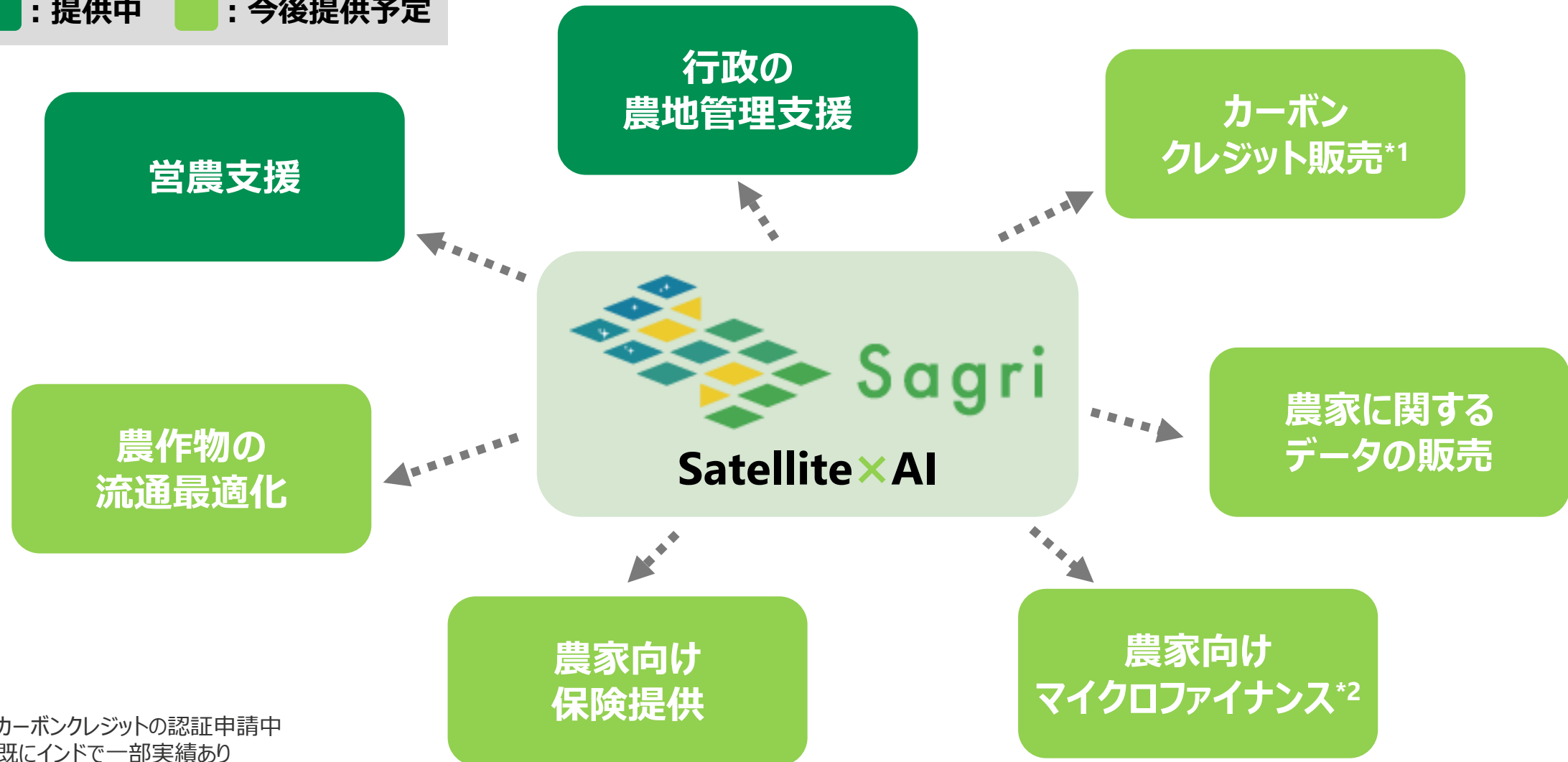
裸地状態における土壌の状態を、pH、CEC、TCなどの土壌化学性ごとに確認できます。

グローバル展開

目指している姿

Sagriは農業分野のプラットフォームを目指す

■ : 提供中 ■ : 今後提供予定



*1 カーボンクレジットの認証申請中

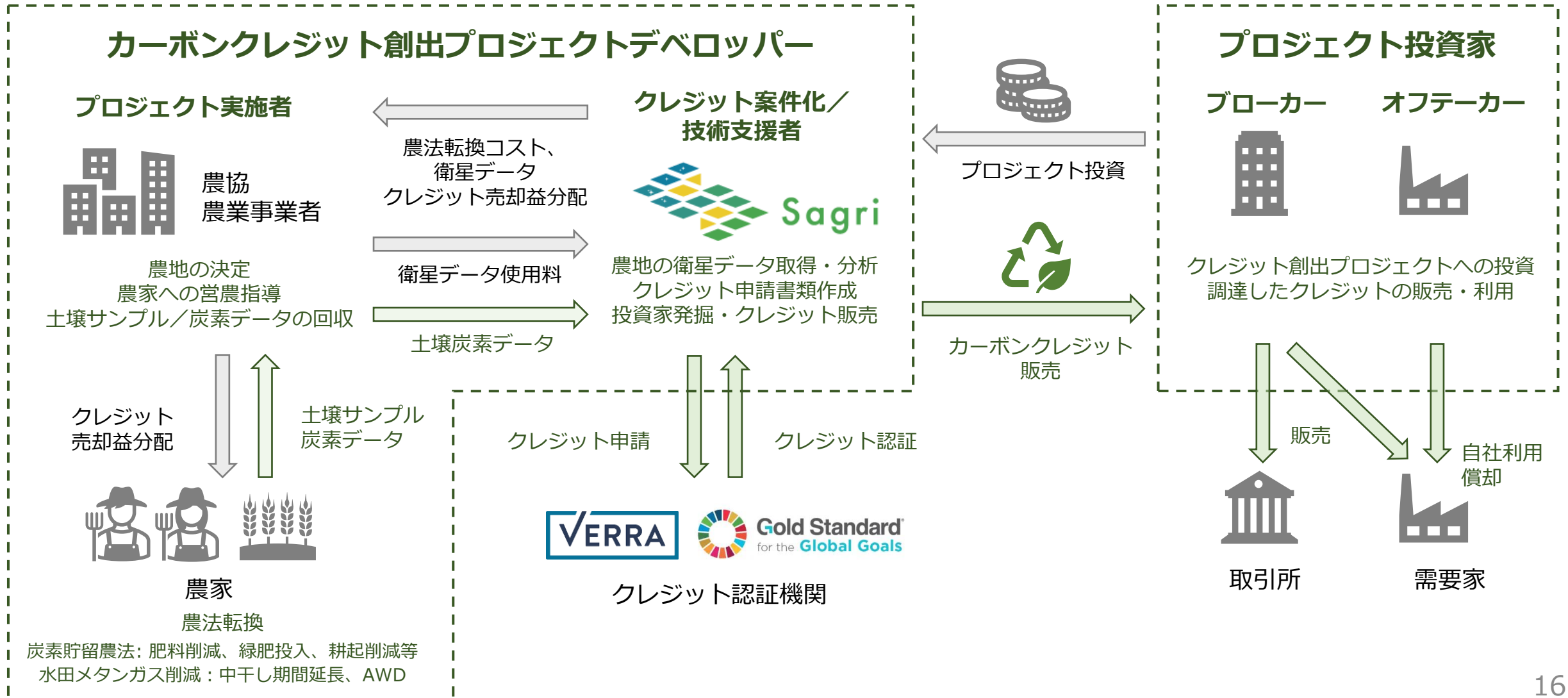
*2 既にインドで一部実績あり

新興国農業 脱炭素化事業

農業由来カーボンクレジット創出プロジェクト

事業モデル

新興国農家の農法転換により土壌炭素を増加させ、創出されるクレジットを先進国需要家に販売



プロジェクトに関する方法論(1/2) - Verra

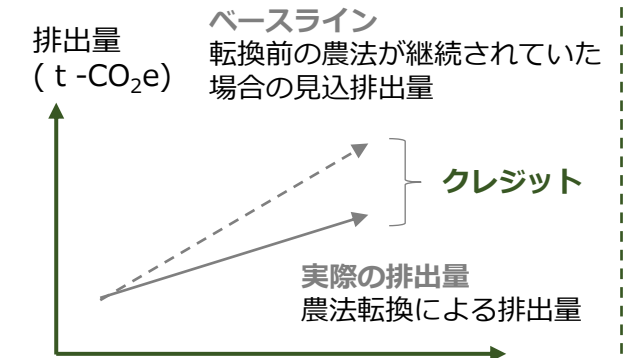
Verraが管理するVerified Carbon Standard (VCS) の「農地管理の改善に掛かる方法論 (VM0042)」
農法転換により土壌炭素を増やし、GHG排出を減らすことでクレジットを創出（自然由来、排出回避・削減）

クレジットの 考え方



農法転換から生まれる、ベースラインシナリオ対比下記①、②の効果

- ①「土壌炭素貯留量の増加」および、
- ②「温室効果ガス（CO₂、CH₄（メタン）、N₂O（一酸化二窒素）の
ネット排出量の削減」



VM0042で 認められる農法 “Regenerative Agriculture”



- a) 肥料（有機、無機）管理の改善
- b) 水管理／灌漑の改善
- c) 省耕起、残渣管理の改善
(例、カバークロップ)
- d) 作物の植付、収穫の改善
(例：アグロフォレストリー、輪作)
- e) 放牧方法の改善

VM0042で 求められる 土壌炭素の 測定方法



- 乾式燃焼等の従来型測定
 - 近接センシング技術*¹による測定
- ※ 現時点では土壌炭素貯留量の測定に
リモートセンシング（衛星データ等）の
使用は認められていないが、将来的な
活用について検討されている

*1: NIR, Vis-NIR, MIR, LIBS, INS等のセンシング技術

プロジェクトに関する方法論(2/2) – Gold Standard

Gold Standardで認められている「水稻栽培における水管理調整によるメタンガスの排出削減」
稲作における中干期間を延長し、GHG排出を減らすことでクレジットを創出（自然由来、排出回避・削減）

クレジットの 考え方



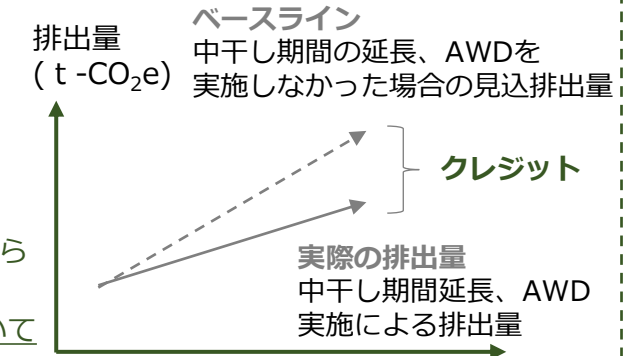
クレジット量は下記の考え方で評価

「従来の水稻栽培におけるCH₄（メタン）排出量」 - 「中干し期間延長、間断灌水（Alternate Wetting and Drying “AWD”）導入によるCH₄（メタン）排出量」

中干し：水稻の栽培期間中、出穂前に一度水田の水を抜いて田面を乾かすことで、過剰な分げつ（根元付近からの枝分かれ）を防止し、成長を制御する作業。

AWD：播種後 10～20 日目までの 10 日間、施肥時期と開花期を除き、落水により水田の土壌を地表面から 15cm 程度乾燥させた後、5cm 程度湛水する作業を一作中に数回繰り返す水管理技術

土壌中に存在する細菌が稲わらや肥料等の有機物を分解することで生成されるメタンは、水田から水を抜いて細菌の活動を抑制することで削減が可能



当該方法論に 含まれる プロジェクト・ 活動



- 中干しの実施、若しくは中干期間の延長
- 間断灌水（AWD）、若しくは好気性条件下での稲作作物の植付、収穫の改善
- 移植栽培から直播栽培への変更

当該方法論の 対象条件 (プロジェクト 地域・活動)



- 生育期に長期間に亘って灌漑される
- 乾季・雨季のいずれにおいても適切な乾燥、湛水状態を保てる灌漑・排水施設を有する
- 米の収量の減少につながらない
- （新品種を用いる場合）農地管理方法を変更しない
- 農家に提供する研修と技術支援が文書化されている
- 導入された栽培方法が現地の規制を準拠している
- プロジェクトデベロッパーが必要な分析方法を用いてCH₄排出量を測定するためのインフラにアクセス可能